

迅速に生分解性プラスチックを堆肥化する 環境と人に優しいコーヒー粕由来の農業用資材開発プロジェクト (R5~R6)

四国ケージ株式会社 合同会社liveR 愛媛大学、愛媛県産業技術研究所

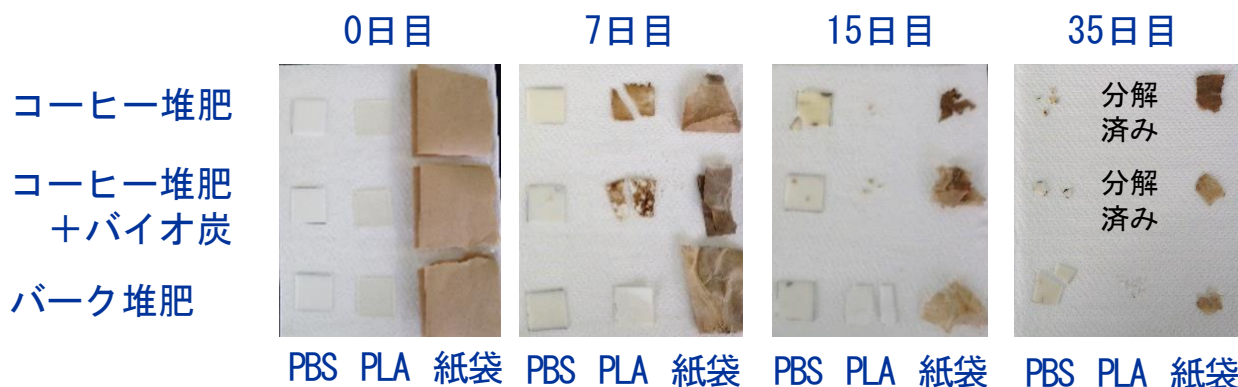
コーヒー粕を使ったコーヒー堆肥の改良を目的に、生分解性プラスチックを迅速に分解する堆肥の開発に取り組んでいます。

【バイオ炭配合コーヒー堆肥の生分解能】

特徴 生分解性プラスチックの分解時間(ポリブチレンサクリネート(PBS)の場合、コンポスト下で半年~1年程度)を短縮

研究内容 生分解性プラスチックであるPBS、ポリ乳酸(PLA)及びPBSコーティング紙袋の分解試験(JISK6954準拠)を実施

分解期間	コーヒー堆肥	コーヒー堆肥+ バイオ炭(20%)	バーク堆肥
PBS	分解継続中	119日	分解継続中
PLA	21日	21日	64日
PBSコーティング紙袋	分解継続中	119日	70日



POINT

- ・ コーヒー堆肥及びバイオ炭混合コーヒー堆肥はPBSの劣化速度が速い。
- ・ バイオ炭を混ぜることで紙を分解しやすい傾向
- ・ バイオ炭をコーヒー堆肥に混ぜることで発芽率が上昇

今年度は、コーヒー堆肥とバーク堆肥の混合などによる生分解性プラスチック分解能力の向上や生育評価等を行い、農業用資材として商品化を目指します。

本研究は、ものづくり産業支援事業により実施しました。
「この事業は、中小企業地域資源活用等促進事業の助成金を活用して実施しています」